

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：32679

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520191

研究課題名(和文)近代琵琶楽の成立と展開

研究課題名(英文)The birth and development of modern biwa music

研究代表者

薦田 治子 (Komoda, Haruko)

武蔵野音楽大学・音楽学部・教授

研究者番号：00323858

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円、(間接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、20世紀前半に全国的な流行を見た近代琵琶楽(薩摩琵琶楽、筑前琵琶楽など)の歴史に関する基礎資料の収集と調査を行った。すなわち、琵琶愛好家のための雑誌『琵琶新聞』(1909-1944)および『水声』(1925-1930)の収録記事のデータベース作成し、また、その他の雑誌類や、演奏会チラシ、写真、名鑑など琵琶関連資料を収集した。その過程で、戦前から活躍していた演奏家たちのまとまった録音資料も発見した。これらの成果と、演奏家のご子孫からの聞き取り、作成データベースを利用した論考を収録した報告書を作成した。

研究成果の概要(英文)：In this research, I collected and carried out research on some basic documents of the biwa music which enjoyed high popularity in the first half of the 20th century in Japan. I made a database of the articles of two important magazines published for biwa aficionados, Biwa shinbun and Suisei. I also collected some other magazines and concert fliers, pictures, lists of musicians etc. I discovered a collection of recordings of performances by biwa musicians who were active since before World War II. I have edited a report of the research including some interviews with the children of the biwa players and three papers by young scholars using the above mentioned database.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：日本音楽 近代日本 琵琶 薩摩琵琶 筑前琵琶 盲僧 戦争と音楽

1. 研究開始当初の背景

近代に生まれた音楽種目は、必ずしもその芸術的な評価が定まっていなかったこともあり、研究が遅れがちである。とくに琵琶楽の歴史に関しては、演奏者や愛好者の立場から書かれたものがほとんどであり、また、最近に至るまで伝説的な起源説話がそのまま無批判に辞典類や概説書に引用されてきた。その最たるものが盲僧琵琶欽明朝に求める説と、薩摩琵琶の起源を戦国時代の武将島津日新斎に求めるものである。

琵琶という楽器そのものは、長い歴史を持ち、雅楽を含む宮廷文化の中で生まれ、また中世を代表する文学作品『平家物語』の語りの伴奏楽器として用いられてきたことから、これらの辞典類の記述は文化史、思想史、国文学、民俗学といった他領域の研究者によっても引用され、誤解が後を絶たない状況であった。

筆者は、さきに、近代琵琶の先行芸能である盲僧琵琶の楽器と楽曲についての調査や研究を行い、楽器としての盲僧琵琶の誕生が1700年ごろであること、薩摩琵琶楽の誕生は18世紀であること、薩摩琵琶楽のレパートリーは、江戸時代にはむしろ浄瑠璃や端唄などの三味線音楽に近いものであったこと、明治時代にあらたに「武士の修養音楽」という名にふさわしいレパートリーが形成されたことを指摘した(薦田治子2006、2009)。

研究開始当初は、上記の成果を踏まえて、近代の琵琶楽史についてきちんとした歴史記述が必要とされていた。

2. 研究の目的

上記の状況を踏まえて、本研究では、明治末から昭和前期に全国的な流行を見た近代琵琶楽(薩摩琵琶楽、筑前琵琶楽など)の歴史に関する基礎資料の収集と調査を目的とした。(1)具体的には、この時期に発効された琵琶愛好者向けの雑誌『琵琶新聞』

(1909-1944)および『水声』(1925-1930)の収録記事のデータベースを作成し、またこの時期の琵琶関連の様々な資料の収集を目的とした。

『琵琶新聞』は、いわば近代琵琶楽の中心的な歴史資料といってもよく、近代琵琶楽の最盛期をほぼカバーし、しかも流派の枠を超えて琵琶界全体の動向やニュースを伝える資料である。また、雑誌『水声』は、発行期間は短く、薩摩琵琶楽の一派である錦心流の機関誌という性質を持ちながらも、昭和初期に中断した『琵琶新聞』が昭和5年(1930)に再開されるとき、その先行誌となっている。つまり、『琵琶新聞』は、『水声』の継続誌として再刊されたのである。また、錦心流は、大正から昭和にかけて、薩摩琵琶楽内部での最大流派でもあり、休刊中の『琵琶新聞』の情報を補う価値もある。このデータベースは、今後の琵琶の歴史研究のみならず、近代という時代における音楽の在り方や、演劇、舞踊、詩吟など琵琶と関連をもった諸ジャンルの研究はじめ、近代日本の文化史研究にも資するところが大きいと考える。

(2)『琵琶新聞』とほぼ同じ時期には、たくさんの琵琶雑誌や演奏者団体の会報などが出版されている。こうした雑誌や会報の類を中心として、近代琵琶楽の歴史資料の収集も目的とした。

3. 研究の方法

(1)『琵琶新聞』と『水声』の調査とデータベース作成の方法

琵琶新聞社発行の月刊誌である『琵琶新聞』と『水声』の2誌については、国会図書館がかなりまとまって所蔵するので、欠号状況を調査したうえで、その記事内容を通観し、分類整理を行い、各号ごとに、記事タイトル、掲載ページ、執筆者、記事内容の分類、関連する琵琶流派、備考の欄を設けて、利用の便を考えたデータベースの作成を試みた。

(2)『琵琶新聞』とほぼ同じ時期に発効された近代琵琶楽の歴史資料のうち、琵琶雑誌や演奏者団体の会報は、読後は廃棄されてしまうことが多く、収集はかなりの困難を伴うが、これらを地方図書館や、琵琶演奏家のご子孫への聞き取り調査などによって、収集を試みた。あわせて、これらの所蔵者の方々から、親や祖父母など、お身内の琵琶活動についての聞き取り調査を行った。

4. 研究成果

(1) 『琵琶新聞』と『水声』の調査とデータベース作成

国会図書館所蔵の上記2誌について、上述の方法に従ってデータベースを作成した。分類方法や、記事タイトルの取り方については、記入者によって若干の違いがあり、公表するためには、細かい部分の手直しが必要だが、個人的には、使用が可能な形になっている。

(2) 近代琵琶楽の歴史資料の収集としては、第二次世界大戦前に発行された琵琶雑誌6点、会報・会誌の類6点、戦後の琵琶雑誌・会報類として7点を、断片的ではあるが入手することができた。また、このほかに、戦前の資料として、写真、演奏会プログラム、歌本、演奏者一覧表、琵琶教師一覧、演奏会チラシなどを入手した。また、個人蔵になる1960年代前半の琵琶界のまとまった録音(仮称「辻靖剛録音」)の存在が判明したので、その内容の調査を行った。この時期には、まだ第2次世界大戦前の名人が活動しており、演奏の水準も概して高い。本研究がきっかけとなり、この録音は、日本琵琶楽協会がデジタル化し、現在それを活用して、琵琶楽の研究会が実施されるようになっている。

(3) 上記(2)の資料は、現在琵琶演奏家として活躍されている方々のお身内(多くは両親)が所蔵されている場合が多かった

ので、そのなかから流派や活躍の地域の異なる4名の方々からお身内の生前の琵琶活動について、聞き書きを行った。薩摩琵琶の演奏者で、第二次世界大戦後、流派の枠を越えて琵琶奏者たちにいち早く演奏の場を提供し、のちの日本琵琶楽協会結成の下地を築いた清川嵐水(薩摩琵琶) 東京で琵琶を習得後、関西に移住して戦前から戦後にかけて活躍した廣瀬緻水、筑前琵琶創始者の息子で日本橋会創始者の橘旭宗、盛岡で活躍した女流の筑前琵琶旭会の奏者藤原旭盛についての情報を得ることができた。第2次世界大戦前後の琵琶界の様相を知る好例と考えられる。

(4) 研究成果の応用として、『琵琶新聞』と『水声』の調査とデータベースを利用して、データベース入力に携わった3人の若手の研究者に小論を執筆・提供してもらった。1件は、この2誌に記された盲僧に関する記事を検討して、近代琵琶の前身である盲僧琵琶について、最盛期の琵琶人たちがどのような認識をもっていたかを明らかにする論考、1件は、筑前琵琶創始者橘旭翁没後に、別派「日本橋会」を設立した実子橘旭宗について、その誕生から別派設立の経緯までをたどる論考、もう1件は、第2次世界大戦中(1943年と1944年)に「琵琶新聞」誌上に発表された新曲の内容と、その演奏頻度に関する調査に基づく論考である。

(5) 上記の結果を収録した報告書を作成した。報告書の内容は、以下のとおりである。

目次

研究概要

1. 研究の目的と背景
2. 研究の対象・方法・結果
3. 研究結果の応用

研究結果

A 『琵琶新聞』と『水声』

1. 国会図書館における所蔵状況
2. 発行の時期による分類
3. 発行状況と体裁（第 期、水声期、第 期、第 期）
4. データベース作成の方針について
5. データベース用調査票記入例

B 近代琵琶楽の歴史資料の収集

1. 戦前の雑誌・会報
2. 戦後の雑誌・会報
3. 戦前のその他の歴史的資料（高橋旭盛資料、板谷旭邑資料、水藤五朗資料）
4. 録音類（辻靖剛録音 琵琶楽協会演奏会/正弦会演奏会）
5. 聞き取り調査
（初世橘旭宗、清川嵐水、広瀬織水、藤原旭盛）
6. 近代琵琶の演奏家情報について

【参考文献】

研究結果の応用 データベースを利用した研究

1. 『琵琶新聞』に見る盲僧琵琶関連記事
星野和幸
2. 『琵琶新聞』に見る橘旭宗の筑前琵琶橋会設立の経緯
譲原えりか
3. 第二次大戦期の琵琶歌のレパートリー
『琵琶新聞』紙上発表の新曲と演奏曲目
水島結子

謝辞

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 1 件)

薦田治子 平成 23 年度科学研究費助成事業 研究報告書『近代琵琶の成立と展開 基礎資料の収集 - 』 2014、77。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

薦田治子 (KOMODA Haruko)
武蔵野音楽大学・教授
研究者番号 00323858

研究者番号：

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：